平成27年度宮城県認知症カフェ設置促進・普及啓発事業

「もみの木オレンジカフェ」開催報告

特定非営利活動法人　もみの木会

平成27年度宮城県認知症カフェ設置促進・普及啓発事業

①認知症カフェ設置・運営事業

・モデル的なカフェの設置・運営（年5回開催）

・知識・技術の集積

②認知症カフェ設置運営マニュアル作成

・カフェの効果的な設置運営方法のマニュアル作成

③認知症カフェ普及促進研修

・マニュアルを活用した関係者向け研修の開催

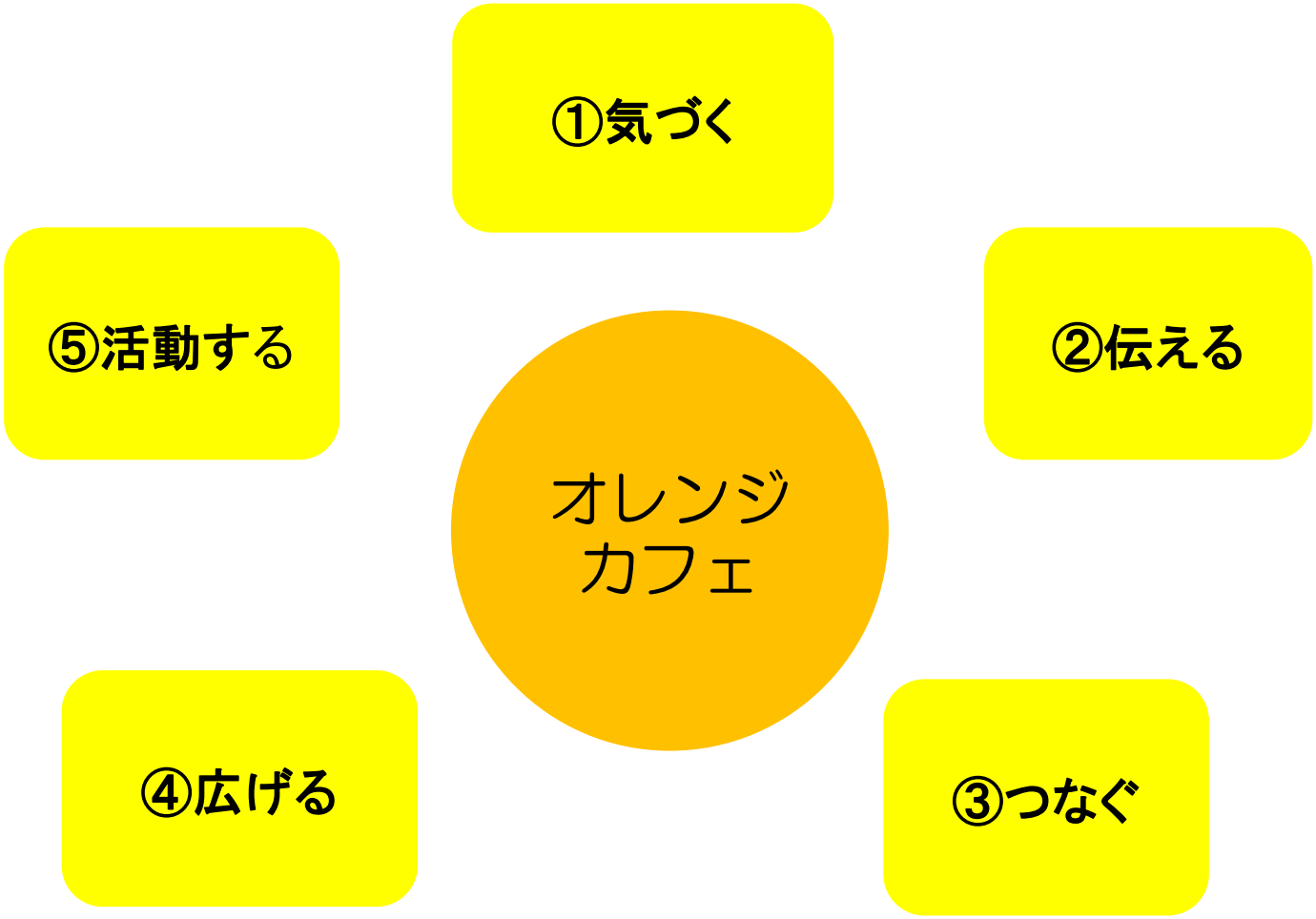
・認知症劇を活用したカフェの普及啓発

オレンジカフェ（認知症カフェ）とは…

- オレンジカフェ（認知症カフェ）とは、「認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集う場」です。
- 「認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）」では、「認知症の人やその家族等に対する支援として、認知症カフェの普及などにより、認知症の人やその家族等に対する支援を推進する」と位置づけています。

※公益社団法人認知症の人と家族の会「認知症カフェのあり方と運営に関する調査研究事業報告書」より引用

オレンジカフェの可能性（期待される役割）



①気づく役割

いつも集う方々をさりげなく気にかけることで「近頃、物忘れが激しい」「場所や時間・人などを間違える」「元気がなくなる」などの変化に気付くことができます。参加する方々の困っている問題・課題などをなるべく早く発見します。

【例】・顔色や具合が悪そう

・最近、カフェに参加しない

・長い間顔をみない

・最近、挨拶をしない

・家に閉じこもっている

・話が噛み合わない

・奥さんが（ご主人が）認知症のようだ

②伝える役割

発見した困りごとを解決するためには何が必要かを考え、専門職に相談したり地域の資源を調べ、内容を伝えます。

（例）•介護保険など公的なサービスや制度

•相談する場所

•医療機関の情報など

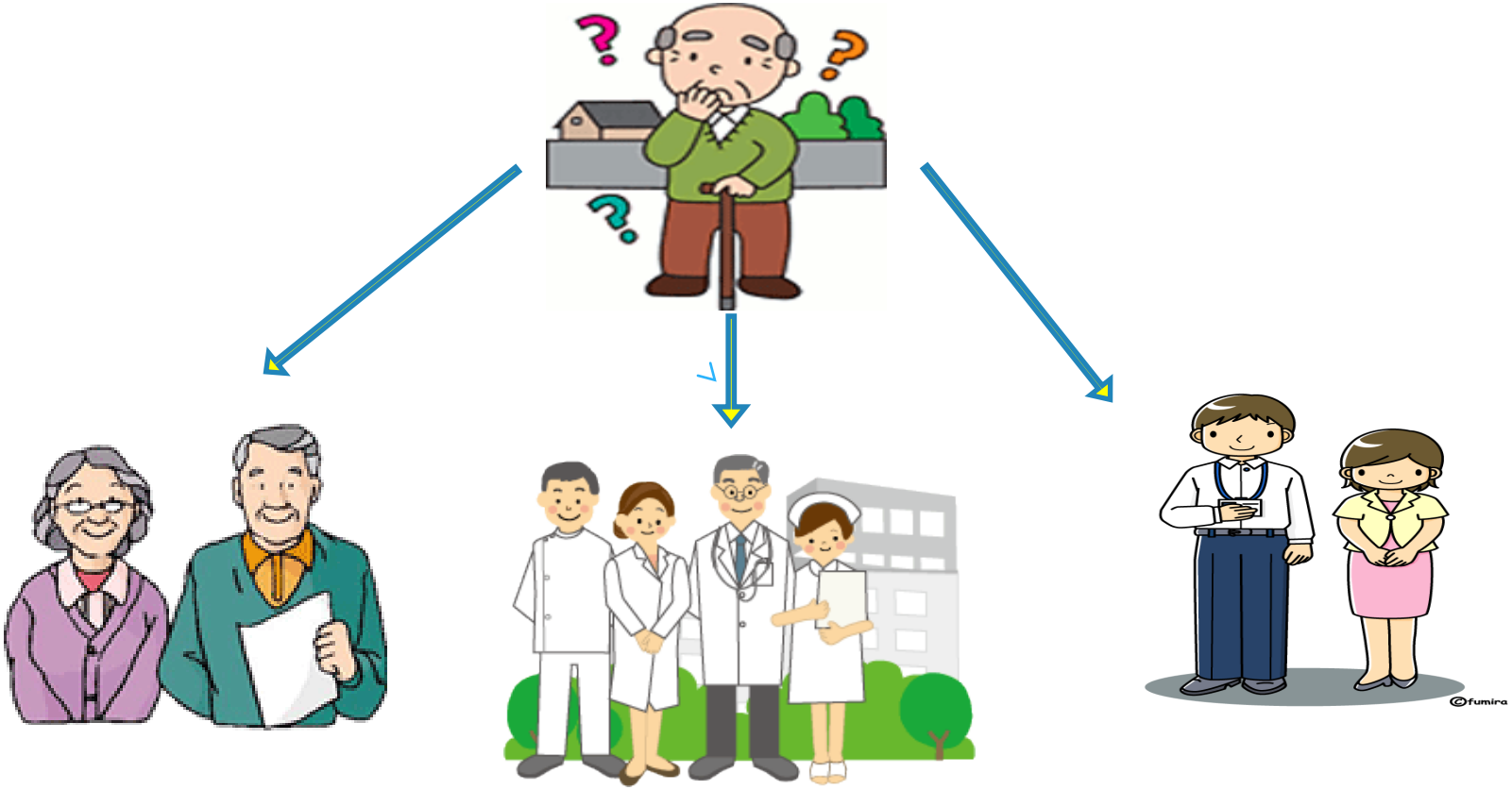
その人に適切な制度や相談先があれば、利用を促し、問題が深刻になる前に手を打つことができます。

オレンジカフェに相談コーナーを設置することも効果的です。

③つなぐ役割

対応が難しいケースには、地域の民生委員・地域包括支援センター・医療機関などの専門機関などへ情報提供や橋渡しを行います。

早めの対応で問題の深刻化を防ぐことができます。



④広げる役割

- 認知症の人が社会的つながりや役割を得たり、他者との会話や趣味活動を通じてまだ出来ることがあると発見し自分らしさを取り戻す機会となる。
- 施設に入所している認知症の人がくつろぎながら社会との接点を持つ場となる。
- 認知症初期で既存の介護サービスに馴染めない人やまだ認知症と告知されていない人が気軽に集い、専門職の人に相談できる機会となる。
- 認知症の人を介護する家族が介護サービス等の情報を気軽に得られる機会となる。
- 認知症の人を介護する家族同士が語り合うことで、実体験に基づく介護の工夫を学びとる良い機会となる。
- 家族が認知症の人の普段とは違う姿や第三者の認知症の人への関わり方を見て理解を深める場となる。
- 認知症の人と地域住民が出会い、交流する場になる。
- 地域住民が認知症を自分の近い将来のこととして身近にとらえ、自分達の地域においてどんな支援が必要か考えるきっかけとなる。
- 世代や障害を越えた地域住民同士が生活の一場面として交流出来る。
- 医療・介護の専門職が地域住民や地域で暮らす認知症の人と出会うことで認知症ケアを通した地域作りを考えるきっかけとなる。
- 医療・介護の専門職と介護する家族・認知症の人が同じ立場で交流できる場となる。
- 市民ボランティアが認知症の人と関わることで理解を深める場となる。

⑤活動する役割

・オレンジカフェをきっかけとして、参加した介護家族や地域住民が、町内会・民生委員・児童委員・専門職・行政などの専門機関と連携して、今後、地域で実現可能な認知症の人への支援について話し合えるようになる。地域住民同士の交流が生まれる。

・オレンジカフェに参加した地域住民が、自分の身の周りにいる認知症の人をさりげなくサポートできるようになる。認知症の人と地域の人々が自然につながることができるようになる。

・地域のボランティアや認知症サポーターが認知症の人への支援・関わり方について学び、活躍の場を広げていく。

特定非営利活動法人もみの木会における取り組み

【法人の運営理念】

住み慣れた町の中で、安心した安らぎのある暮らし、毎日がゆったり、楽しく、自由に、ありのままの自分を大切にし、共に生きる喜び、笑顔の絶えない暮らし、地域に開かれた環境を育むホームとして、その日を大切に生きることを目指します。

1.広報活動について

・運営推進会議にて委員の方々へ主旨説明・協力依頼。

・文書と家族会にてグループホームの入居者ご家族へ主旨説明。

・「町民憩いの日の集い」にて区長より地域住民へ呼びかけ。

・町内会の掲示板にポスター掲示。

・施設玄関前にポスター掲示。

・運営推進委員（区長・民生委員）や行政からご協力頂き、認知症の方々や地域住民・ボランティア・認知症サポーターへ声掛け。

・チラシを作成して近隣住民へ配布。

・1回目以降は、会の終了時に次回開催日を告知。

2.「オレンジカフェ」開催に向けて、運営推進会議の活用
地域密着型施設における運営推進会議とは･･･

・実施について･･･2か月に1回実施。

・参加者について･･･行政（役場・包括支援センター）・地区の区長・民生委員・近隣住民代表・家族代表・入居者代表・施設の代表者・事業所の管理者・相談員

・内容・意義

①施設の運営状況の報告

②認知症やグループホームの生活への理解

③地域の情報を得る

④互助の関係を築く

⑤地域から頼られる拠点となる

3.「もみの木オレンジカフェ」のコンセプト

①だれでも安心して住み続けられる地域づくり。

会う人には挨拶や声掛けが出来る関係性の構築。

顔なじみになることで、様々な変化に気づくことが出来る。

②だれでも気軽に立ち寄れる相談室。(介護や認知症について)

③地域力を活かす。地域の知恵を借りて、ともに考える関係性づくり。

4.「もみの木オレンジカフェ」実施状況

•第1回　8月6日　午前10時30分～午後12時　参加者25名
顔合わせ•お茶飲み会•包括支援センター主任より出前講座
•第2回　9月4日　午後3時～午後4時30分　参加者29名
お茶飲み会•包括支援センター主任より出前講座
•第3回　10月3日　午後12時30分～午後2時
参加者88名（うちオレンジカフェ32名）
「もみの木会芋煮＆サンマ祭り」と合同開催•屋外にて芋煮会
•第4回　11月5日　午後3時～午後4時30分　参加者27名
ラジオ体操講師による運動講座•お茶飲み会•認知症についての勉強会
•第5回　12月14日　午前10時～午後12時
お茶飲み会•クリスマスリース作り（予定）

お茶やお菓子などのセルフサービスコーナー

たくさんの地域の方にお集まり頂き、笑顔があふれました。

行政や専門職の方々にもご協力頂きました。

地域包括支援センター主任から暮らしに役立つ出前講座
「熱中症予防について」

地域のラジオ体操講師（ボランティア）による運動講座

一つ一つの動作を楽しく教えて頂きました

6.オレンジカフェ実施の効果

①認知症の方への効果

•家にこもりがちだった方に、近くに気軽に立ち寄れる居場所が出来た。

•表情の変化。地域の人と交流することにより明るく活き活きとした表情が見られた。

②地域への効果

•認知症の方も認知症でない方も自然に交流する姿が見られた。

•ボランティア活動や認知症サポーターへの関心が高まった。

•施設職員の認知症の方への接し方を見て勉強になった。

③ボランティア•認知症サポーターの方への効果

•実際に認知症の方と関わることで理解を深めることが出来た。

④運営スタッフ•事業所への効果

•地域で暮らす認知症の方と出会うことで認知症ケアを通した地域づくりへの役割に気づくことが出来た。

•地域の方々との交流を通して、事業所の持つ可能性に気づくことが出来た。

•地域や行政•専門職の方々と協力体制を構築し、共に地域づくりについて考えることが出来た。

7.今後の課題

- 基本的に自由参加の為、人数の把握が難しい
- 一人で来れない方への参加支援
- 開催会場のスペースの問題
- 事業所だけでは運営が難しい（地域や行政・専門職との連携が不可欠）
- 人材確保・認知症ケアを理解したボランティアの育成
- 「オレンジカフェ」の質の向上・内容の充実
- 参加者のニーズの把握
- その他（感染症対策・個人情報の問題など）

8. 継続・発展に向けて・・・

・頑張りすぎない。肩肘を張らず運営側もリラックスして・・

・交流重視。ちょっと役立つ介護情報や楽しみごとを盛り込む。

・将来的には、運営主体は地域の方々。施設職員はサポート。

↓

楽しく・気軽に・活き活きと誰もが集える地域交流の場